

台風18号の接近に伴う農作物等の管理対策の徹底について

平成27年9月8日
福井県農業総合指導推進会議

<用排水等の見回り注意>

- ・豪雨・強風の中、圃場の見回りなどを行うと、河川や農業用水路への転落、ハウス損壊の危険があるので、大雨や強風が収まるまで見回りなどを控える。
- ・大雨が収まった後でも、増水した水路等の危険な場所には近づかない。
- ・降雨により、圃場の畦畔や法面が崩壊しやすくなるので厳重に注意する。

<台風接近前の対応>

1 共通事項

【ほ場の排水対策】

- ・大雨によりほ場の冠水や浸水のおそれがあることから、ほ場の周囲や排水溝を掘り直す。特に、これまで冠水や浸水したことのあるほ場については、重点的に排水対策を実施する。

【園芸施設など】

- ・強風に備え、破損している天窓などは早急に修繕する。
- ・フィルムの取付金具やハウスバンドをしっかりと固定し、風が強くなってきたら天窓や入口を閉める。
- ・大雨により施設内に停滞水が生じないように、周囲の排水溝を点検・整備する。

2 水 稻

- ・台風通過後の排水が速やかに行われるよう排水溝を切る。特に倒伏したほ場や倒伏が懸念されるほ場では、徹底する。

3 大豆、ソバ

- ・台風通過後の排水が速やかに行われるよう、暗渠排水の栓を開けるとともに、ほ場の周囲や排水溝を点検・整備する。

4 野 菜

- ・露地のピーマン、ナス等の果菜類は収穫できるものは収穫する。また、不良果や黄化した茎葉等は取り除くなどして、株の負担を少なくする。

5 花き

- ・露地のキク等では、畝の両端の親支柱や中間支柱をしっかりと立て直し、中間にタルキグイを入れて補強する。収穫間近の場合は、早めに収穫する。

6 果樹

- ・ナシ等の棚栽培では、支柱やあおり止めなどの点検・補修を行う。防風ネットは、固定紐のゆるみをなくし、ネットの外側からビニールバンドで固定するなどして風であおられるのを防ぐ。
- ・収穫時期を迎えているナシの「豊水」については、熟度に達している果実の収穫を進める。
- ・ブドウなどの施設管理は「1 共通事項」の【園芸施設など】に従い、対策を行う。

7 畜産

- ・畜舎に強風が吹き込まないように、戸と窓をしっかりとしめる。また、飛散物からの損傷を受けないように畜舎周辺の整理に努める。
- ・畜舎等の樋や側溝などの清掃を行い、排水対策を実施する。
- ・放牧地においては、牧柵などの施設の破損、土砂崩れの危険がないか点検する。また、危険と判断した場合は、速やかに牛を牛舎に引き上げる。

<台風通過後の対応>

1 共通事項

- ・台風が通過した後は、速やかに施設などの点検を行い、補修や修理が必要な場合には適切な処置を行う。
- ・ほ場や施設が冠水した場合は、溝切り等により、すみやかに排水を行う。
- ・施設では、サイドビニールの巻き上げ等により換気を行うなど適切な温湿度管理に努める。
- ・マルチをしている畝が冠水した場合は、マルチ内が水分過多となりやすいため、マルチを除去したり、畝肩の部分までめくりあげたりして、土壤水分を適正にする。

2 水稲

- ・収穫時期を迎えている水稲は、雨が止むのを待って、籾水分を確認した上で刈取りを行う。なお、倒伏したほ場では、コンバインの刈取速度を落として収

穫作業を行う。

- ・倒伏により穂発芽した被害籾などは、別仕分けとする。
- ・収穫直前に風雨に揉まれた籾は、籾殻が剥けたりしやすいので、①コンバインのエンジン回転数をやや落とす、②毎時乾減率を0.8%以下とする、③籾摺りは穀温が完全に常温に下がるのを待って行うなど、特に丁寧な収穫・乾燥調製を心がける。
- ・カントリーエレベーターなどでは、高水分籾が持ち込まれた場合、荷受け時の仕分けを実施するなど、事故米の発生を防止する。

3 大豆、ソバ

- ・停滞水がある場合、排水溝の手直しなどを行い速やかに排水する。

4 野菜・花き

- ・キャベツやネギなど茎葉が傷ついた場合、疫病や軟腐病などの病害が発生しやすくなるので、被害株・葉を除去し、防除を徹底する。
- ・根傷みや茎葉汚損により草勢低下が懸念される場合、回復のため液肥を葉面散布する。また、天候が回復してきたら、早めに畦間を中耕して根の回復を図る。
- ・花きが強風により傾いた場合は、長時間そのままにしておくとは元に戻らないため、速やかに立て直す。
- ・出荷中のほ場では、汚れの少ない薬剤で防除する。
- ・曲がりや茎葉の損傷の大きい花が出荷時に混入しないようにする。

5 果樹

- ・大きな枝が裂けた場合は、傷口を合わせボルトなどで固定する。枝が折れた場合はキズのない部分まで切り戻し、切断面に癒合剤を塗布する。
- ・カキなどで収穫前の果実にキズがついた場合は、キズ果を摘果する。

6 畜産

- ・施設の破損状況を点検し修復する。
- ・雨に濡れた飼料や乾草は、速やかに給与するか、変敗していれば廃棄する。
- ・畜舎に雨が吹き込んだ場合は、風通しを良くし乾燥に努め、必要に応じ消毒を行う。
- ・生乳処理室などに風雨が吹き込んだ場合は、器具施設の消毒を行う。